

être en train de+infinitif の構文特性⁽¹⁾

谷 口 千賀子

0. は じ め に

これまで、フランス語の直説法の現在形に関する研究は数々なされているが、être en train de+infinitif に関する研究は、筆者の知るかぎり、青木 (1987) と FRANCKEL (1989) のみであり、これらも être en train de とそれに導かれる不定法表現との関係を論じることにより紙面の大半を費している。青木 (1987) では、(I) 動詞の語彙的アスペクトの制約、(II) テンス (事柄の時間軸上への定着) の制約、(III) モダリティ (特に話者の断言 assertion に関わるモダリティ) の制約、という観点で直説法現在形と être en train de の比較を行い、être en train de には断定モダリティの操作がないことから否定文と疑問文が存在しない⁽²⁾と述べている。また FRANCKEL (1989) では、être en train de に導かれる事行がプラスの価値を持つ場合とマイナスの価値を持つ場合に分け、事行の意味によって être en train de を含む文が表す意味 (意志や警告など) も変化することが述べられている。

しかし、フランス語の使用実態を観察すると、être en train de の否定文や疑問文は少ないながらも存在し、être en train de を含む文の意味変化は、文脈と être en train de に導かれる語彙によるのであって、être en train de を用いることによって生じるわけではないといった具合に、この2つの論文ではまだ être en train de の特質を完全に明らかにしているとは言い難いように思われる。

本稿では、être en train de が、否定文、疑問文、及びこれまでほとんど触れ

られることのなかった直説法現在形、半過去形以外の時制で用いられる場合を観察することによって、être en train de を用いた文を構築するときにはどのような操作がなされているのか、そのメカニズムを探っていきたい。

1. être en train de と否定文・疑問文

上でも見たように、青木(1987)によると、「être en train de は否定形、疑問形がない」ということになっている。しかし、実際には数は少ないながらもいくつかの否定文、疑問文が観察され、必ずしも *négation métalinguistique*, *question-reprise* の場合だけではない。

- 1) -Je vous ai dit de ne jamais toucher à ces papiers; et vous *n'étiez pas en train de* ranger, vous lisiez! (BEAUVOIR, S DE, *Les mandarins*, p. 161)
- 2) -En tout cas les Français *ne sont pas en train de* se dégoûter de la littérature. Je pris Henri à témoin: (...). (ibid. p. 187)
- 3) Il n'y aurait pas d'Américains en Afrique si, de votre côté, vous *n'étiez pas en train de* battre Rommel. (GAULLE, CH DE, *Memoires de guerre*, p. 52)
- 4) Maintenant, il semblait que la jeune fille, de sa main libre, imprimât des secousses très légères, répétées, au doigt qu'elle lui avait glissé dans l'oreille. -«Mais *qu'es-tu en train de* faire, j'ai l'impression de rêver.» (KAWABATA, Y, *Le lac*, p. 49)
- 5) Or, dans le tumulte des idées dont s'accompagne l'éveil de l'esprit, *ne sommes-nous pas en train de* physiquement dégénérer? Nous devrions rougir, (...). (TEILHARD DE CHARDIN, *Le phenomene humain*, p. 314)

まず、être en train de の否定文の場合を見てみよう。インフォーマント調査⁽⁴⁾の際に、être en train de の否定文では *ne...pas, mais~* という形態が意識されるという指摘を受けた。上の例 1) ~ 3) を見ると、*ne...pas, mais~* という形態が現れている訳ではないが、文脈から *ne pas* を伴って示されている事行以外の要素が意識されているのが分かる。1) では〈lire〉が実際に意識されている事行であり、2) ではそれに続く文脈からも話者が〈se dégoûter〉に反する状態を思い描いていることが推測でき、3) では *si* 以下が事実と反す

る事行を表していることから、〈ne pas battre〉ではなく実際に起こった事行〈battre〉を意識させる、と解釈できる。このことから考えて、être en train de の否定文は事行の有無、つまり何かが起こっているのか何も起こっていないのか、を問題にしているのではなく、事行の内容の正否を問題にしているのではないだろうか。つまり、何かが起こっていることは確認しているのだが、実際に起こっている事行とは違った内容の事行を être en train de の否定文を使用することで示しているのである。

次に疑問文の場合を見てみよう。4) ではこの主人公は明らかに、何かが起こっていることは既に知っている。しかし、起こっている事行の内容がどのように行われているのか分からないのだ。5) では〈dégénérer〉という事実が、発話の場では〈ne pas dégénérer〉と反語的に表され、話者が同意を求めている。つまり、être en train de の疑問文の場合も、事行自体の有無（何かが起こっているのか何も起こっていないのか）を問題にしているのではなく、起こっていることが確認されている事行の内容について話者が尋ねたり、同意を求めたりしているにすぎない。

このように、être en train de の否定文にも疑問文にも共通して言えるのは、話者は何かが起こっていることはあらかじめ確認した上で（何もない状態はありえない）その内容のみに言及している、ということである。否定文、疑問文を考える場合、青木（1987）のように直説法現在形を基準に考えるべきではない。そもそも現在形と être en train de とは、事行をめぐってその存在の有無を問題にしているのか、その内容の正否を問題にしているのか、事行の捉え方が違っているのである。

2. être en train de と直説法現在形・半過去形以外の活用形

これまでは être en train de が直説法現在形や半過去形で用いられている場合のみが多く取り上げられ、論じられてきたが、果たしてその他の形では用いられることがないのだろうか。実際に FRANTEXT 及びその他のテキスト⁽⁴⁾で

調査した結果、9 例見つかった。その内訳は、大過去形 3 例、単純未来形 2 例、条件法現在形 1 例、接続法現在形 2 例、接続法半過去形 1 例である⁽⁵⁾。

- 6) Mais quand je le promenai dans le carré français, quand il se pavana en touriste dans ses bars et ses patios, il jubilait comme s'il *avait été en train de* jouer un bon tour au destin. (BEAUVOIR. S DE, *Les mandarins*, p.423)
- 7) Elle avait débité ces derniers mots d'un ton solennel, comme si elle *avait été en train de* prononcer des vœux. (ibid., p.494)
- 8) -Et me retournant, je te verrai de plus en plus loin, tu *seras en train de* décroître, laisse-moi parler, puis un jour me retournant, à mon habitude, la chose se passera ainsi, (...). (BERGER. R, *Le sud*, p.153)
- 9) Vous pensez bien que je n'accepterai jamais de continuer à mener mon heureuse petite vie de plaisirs, pendant que vous *serez en train de* moucher et de nettoyer des moutards, (...). (ANOUILH. J, *La répétition ou l'amour puni*, p.60)
- 10) (...) que feriez-vous si l'on vous disait, alors que vous *seriez en train de* travailler à un vitrail. (GREEN. J, *Journal T.5*, p.189)
- 11) Je ne peux pas le trouver. Crois-tu qu'il *soit en train de* boire en cachette son litre de rouge? (SCHOGT, p.69)
- 12) Mais Darlin paraît décidé. Il semble que les Allemands *soient en train de* remettre à Vichy le matériel nécessaire pour cette attaque, (...). (GAULLE. CH DE, *Memoires de guerre: L'APPEL*, p.420)
- 13) (...) et Georges (à moins que ce ne fût toujours Blum, s'interrompant lui-même, bouffonnant, à moins qu'il Georges ne *fût pas en train de* dialoguer sous la froide pluie saxonne avec un petit juif souffreteux (...). (SIMON. C, *La route des flandres*, p.186)

このように、直説法現在形や半過去形以外にもいろいろな活用形で être en train de が用いられることが分かる。6), 7) では大過去形が用いられているが, comme si に導かれていることから、時間的位置付けのマーカーではないので例外と考えてよい。その他の複合形に関しては我々の調査の範囲では用例が見つかっていない。

1 では, être en train de が否定文、疑問文として用いられるとき、何かが起こっていることを確認した上で、その内容に言及する、と述べた。この考え方は肯定文の場合においても有効であるように思われる。たとえば次のような場

合,

- 14) “(...) surtout quand ils sont aussi gentils que Louissette!” Moi, j’ai regardé Louissette, elle était plus loin, dans le jardin, *en train de* sentir les bégonias. (SEMPE-GOSCINNY, *Le petit nicolas*, p.87)
- 15) (...) c’était un lion qui voulait manger le petit ours et le petit ours, il ne voyait pas le lion, parce qu’il *était en train de* manger du miel. (ibid., p. 122)

14) では, Nicolas が間違っ**て**叱られているところ, てっきり一緒に叱られていると思っていた Louissette が「よいこ」のふりをしている場面で, Nicolas が考えていたのとは違った事行〈sentir les bégonias〉が生起していることを, また15)においても, 〈voir le lion〉ではなく〈manger du miel〉であることを表しているように, いずれの場合も起こった事行の内容に言及している。

しかし, 14), 15) の場合も, 否定文, 疑問文の場合も「何かが起こっているという事実の確認」を前提としていたが, 6)~13)を見ると, 「事実の確認」とは言えない。特に, être en train de が単純未来形や条件法, 接続法で用いられている場合, 起こっている(起ころうとしている)事柄が現実のものかどうか確認することはできない¹⁰⁾。それではどのように説明すればよいのだろうか。現実に行 p が起こっている(起こった)必要はなく, 単に話者が事行 p の生起を頭の中に描くことができればよいのではないだろうか。つまり, たとえば8)では, 未来のある時点で何かが起こり, その内容は〈toi-décroître〉であることを発話時点において想定しさえすればよい。たとえ, その内容が結果的に現実とは食い違うものであったとしてもかまわないのである。起こる事行が1つのイメージとして取り上げられている。否定文や疑問文についても同様の解釈が可能である。13)は, à moins que に導かれていることから, 現実に関**わ**ったことではなくあくまでも仮定の話となっている。何かが起こったとしても, その内容は〈ne pas dialoguer〉なのである。

このように考えてコーパスを観察すると, 6), 7)のように comme si のあとに être en train de が用いられることにも納得がいく。必ずしも現実に関**わ**っていることでもなくとも, あるべき事行, ありうる事行を認めて, イメージ

するだけで良いからである。その他, 12), 13) のように *sembler*, à moins que 以外にも, *devoir*, *craindre* や *si* が être en train de に先立つ用例もいくつか存在する。

- 16) Elle dit: <Vous avez vu?> Mais son voisin *devait être en train de* lire, car il ne paraît pas autrement ému. (LAPEYRE. P, *La lenteur de l'avenir*, p. 121)
- 17) Je dînai chez lui la semaine suivante, et il me confia dans un bref aparté qu'il était sorti de ses embêtements mais qu'il *craignait d'être en train de* s'embourgeoiser. (BEAUVOIR. S DE, *Memoires jeune fille rangee*, p. 215)
- 18) Non, j'ai pensé tout à coup: ces pensées, je ne les aurais pas, *si* mon père n'était pas *en train de* mourir, à Strasbourg, loin de moi. (VRIGNY. R, *La nuit de mougins*, p. 178)

以上のように, être en train de は, 何かが起こると想定してその内容をイメージすることを表すマーカーであり, その時間的, 概念的的位置付けは être の活用形によって表されているのである。

3. お わ り に

以上, être en train de の特質をこれまであまり触れられることのなかった否定文, 疑問文, そして直説法現在形や半過去形以外の時制で用いられている場合を観察することによって明らかにしてきた。2でも述べたが, être en train de に関する上記の考察は肯定文の場合でも同様に有効である。

être en train de は何かが起こることを想定した上でその内容に関することに関及することを示すマーカーであるが, その役割を担っているのはもっぱら en train de の部分である。このことは 14) や次のように, en train de が独立して用いられている場合のあることを確認できることから分かる。

- 19) Papa est arrivé et il nous a trouvés tout les deux, assis devant la porte, moi *en train de* pleurer, Rex *en train de* cracher. (SEMPE-GOSCINNY, *Le petit nicolas*, p. 51)

この場合、時間的な位置付けは文脈にゆだねられている。一般に用いられている être をともなった形るとき、その時間的位置付けは être の時制によって示されているわけであるが、2でもみたように、être en train de を用いて表される事行は必ずしも現実の世界に属している必要はない。そのことは être が直説法以外の法にも活用することから分かる。

我々は今回、être en train de が持つ性質をいろいろな文のタイプを通して観察してきた。être en train de は一般に進行中の事行を表す場合に用いられる、とされているが、このアスペクトのマーカーとしての性質が、青木(1987)や FRANCKEL (1989)でも扱われているように être en train de の後に続く事行のタイプに制約を課する、という事実も認めねばならない。当然のことながら、上で見てきたように être en train de を用いた文を構築する際も、この事行のタイプの制約を受けているわけである。

また、興味深い問題として、être en train de を用いて表された事行の対比される内容が発話の場に現れているとき、その一方にしか être en train de が用いられていないことがあげられる。2)を見ると、〈ranger〉と〈lire〉が対比されているのだが、なぜ être en train de は ranger についてしか用いられず、lire は半過去形で表されているのだろうか。同様のことが15)にも当てはまる。対比される内容が発話の場に現れているとき、それぞれの事行に être en train de が用いられている例を観察することができなかった。今回は触れることのなかった être en train de に導かれる語彙に関する制約の問題についてもさらに研究の余地が残っているように思われるが、それはまた稿を改めて論じることにした。

注

- (1) 以下に示す例文は筆者が収集したもののほかに、FRANTEXT によって1950年以降の331テキストより採集したものを含む。(ただし FRANTEXT の場合は直説法現在形と半過去形の肯定文は除く。)なお、FRANTEXT 検索にあたっては関西学院大学文学部中川努教授に大変お世話になった。この場を借りて心よりお礼を申し上げる。
- (2) p. 22で「être en train de の否定、疑問はいわゆる *négation métalinguistique*, *question-reprise* にしかならない」と述べられているが、その後 p. 26で「être en

train de は疑問形, 否定形がない」となっている。

- (3) 高学歴のフランス人3人。
- (4) 小説: KAWABATA, Y. (1978): *Le lac*, Edition Albin Michel.
 LAPEYRE, P. (1987): *La lenteur de l'avenir*, Edition de Minuit.
 SEMPE-GOSCINNY, (1960): *Le petit Nicolas*, Denoël. 他6冊。
 研究書等約20冊。
- (5) SCHOGT (1968) においても être en train de は直説法現在形, 半過去形, 単純未来形, 条件法, 接続法とは共起し, 直説法単純過去形, 複合過去形, 前未来形, 前過去形, 大過去形とは共起しないことが示されている (p. 69)。実際の我々の調査においても, ほとんど同様の結果となった。
- (6) 接続法の位置付けについては, 不定法と直説法の中間的立場にあるという曾我(1992)の考え方を参照。

参考文献

- 青木三郎 (1987): 「現代仏語のアスペクト・テンス・モダリティー—être en train de+infinitif と現在形について—」, 『フランス語学研究』21号 pp. 20-35.
- FRANCKEL, J.-J. (1989): *Étude de quelques marqueurs aspectuels du français*, Librairie Droz.
- SCHOGT, H. (1968): *Le système verbal du français contemporain*, Mouton.
- 曾我祐典 (1992): 『フランス語における状況の表現法——構文・動詞叙法の選択——』, 白水社